

1面：医学研究科長、医学部長寄稿、「予防医学推進学講座」開設にあたって...
2面：教授就任にあたってのご挨拶...
3面：第82回日本医学放射線学会総会CyPos賞...
4面：第183回東北外科学会学生奨励賞...
5面：第106回弘前医学部会...
6面：岩木健康増進プロジェクト...
7面：第78回日本化学療法学会総会...
8面：7速期を目指す名城大女子駅伝部...
9面：学生だより「クラフター」...
10面：学生だより「クラフター」...
11面：学生だより「クラフター」...
12面：研究室紹介「循環器内科学講座」...
13面：書籍紹介「FCバルサルバ」...
14面：部活動紹介「柔道部」...

題字 元弘前大学長 遠藤正彦氏筆

研究論文数ランキング

Table with 10 columns (Rank, 2001-2003, 2003-2005, 2005-2007, 2007-2009, 2009-2011, 2011-2013, 2013-2015, 2015-2017, 2017-2019, 2019-2021) and 10 rows of country data.

Top10%研究論文数ランキング

Table with 10 columns (Rank, 2001-2003, 2003-2005, 2005-2007, 2007-2009, 2009-2011, 2011-2013, 2013-2015, 2015-2017, 2017-2019, 2019-2021) and 10 rows of country data.

最新の報告(2019-2021)ではスペイン、韓国、イランに抜かれ13位 JST (Science Portal) より



国の財政が厳しくなり、効果的な資源配分を行う必要性が生じ、より柔軟な財務会計システムの下の学内資源の再配分を可能とする...

国際卓越研究大学並びに地域中核・特色ある研究大学の設置の背景と大学序列化
医学研究科長 廣田和美

て、国が財政的に責任をもちながら自主・自立という大学の特性を活かした運営ができることとなったが、国の制度環境整備が不十分であったこと、法人化が各大学での発想の転換に必ずしも繋がらず、旧態依然とした運営をしていたことから、かえって各大学の研究力は低下した。左表の様に、論文数が緩やかに低下しているが、それ以上に質の高い論文におけるTOP10%論文数におけるランキング低下は急速で...

あり、現在日本はベスト10圏外にまで落ちた。このため、二〇二一年三月、世界と伍する研究大学を実現するために必要な制度改革及び大学ファンド事業に係る制度について調査・検討を行うため、総合科学技術・イノベーション会議(CSSTI)の下に「世界と伍する研究大学専門調査会」が設置され、検討結果が二〇二一年八月に報告された。こうして、新規性の高い挑戦的な研究や若手研究者育成を目指す上で必要な大学の財政的自律と構造改革を後押しするために、府省連携で十兆円規模の大学ファンドを創設し、「国際卓越研究大学」が設置されることになった。加えて、トップレベルの「国際卓越研究大学」だけでなく、地域の中核として特定分野で強みを持つ大学の機能を強化し、成長の駆動力へと転換することを目的として、「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ」も創設された。国際卓越研究大学は五大学、地域中核特色ある研究大学は最大二十五大学の予定である。この他、既に指定国立大学十大学(東大、京大、阪大、東大、北大、名大、九大、東工大、東京医科歯科大、筑波大、一橋大)があり、国際卓越研究大学の多くがこの中から選ばれていることは間違いない。よって、国際卓越研究大学が最上位、次に指定国立大学、そして地域中核

共同研究講座 「予防医学推進学講座」開設にあたって
予防医学推進学講座 教授 伊東健

令和五年四月一日に株式会社プリメディカとの共同研究講座「予防医学推進学講座」を設置し、開設式が令和五年六月六日に弘前大学医学研究科にて執り行われました。開設式には、株式会社プリメディカから、富永朋代表取締役社長兼CEO、山岸俊哉執行役員CTO、事業開発部から小佐々大熙様にご参加いただき、弘前大学からは福田眞作学長、廣田和美医学研究科長、中路重之学長特別補佐、村下公一学長特別補佐、COINNEXT機構長、三上達也教授、玉田嘉紀教授と私が参加しました。株式会社プリメディカ(本社・東京)は重大疾患の発症リスクを知るための検査サービスを通じて、病気のリスク検査から始まる予防医療を世の中に広く浸透させ、「医療費の増加」や平均寿命と健康寿命の差がもたらす「介護負担の増加」といった課題の解決を目指すことをそのミッションに掲げています。まさに現代予防医学のど真ん中をいっぺり、予防医学推進学講座という講座名にもその思いが頭れているように思います。プリメディカの検査サービスは、脳梗塞・心筋梗塞のリスク検査やアルツハイマー型認知症のリスク検査など様々な検査がありますが、医療機関と提携して検査を行うことにその特徴があります。まさに先端的な予防医療を実践しており、私どももこれから一緒に研究できることを楽しみにしております。予防医学推進学講座には、玉田教授、三上教授、中路学長特別補佐、多田羅洋太助教と私が参加し、株式会社プリメディカからは富永社長、山岸CTO、坂爪洋検査管理部長、小川健太事業開発部長、佐藤匠造営業部長、検査管理部の大島彬様、事業開発部の小佐々様に参加します。予防医学推進学講座では岩木健康増進プロジェクト健康診において粥状動脈硬化症の検査で

特色ある研究大学と続く。これら三つのカテゴリーに入る大学は三十五〜四十大学であり、これらの大学とその他の残りの七百五十余りの国公私立大学との差別化が進むのではないかと危惧する。これは明らかに大学の序列化である。少子高齢化で受験生の減少が続く北東北をはじめとした地方大学は、統合再編を近い将来余儀なくされると思われるが、その際にこの序列が使われたとしても不思議ではない。このため、弘前大学は近い将来に起こるであろう統合再編で、中核となる大学であるためにも、地域中核・特色ある研究大学の取得を目指す必要がある。今のところ、五月末に発表された「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」には、弘前大学は採択された。しかし本丸は、「地域中核・特色ある研究大学の強化促進事業」である。「世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)」か「共創の場形成支援プログラム(COINNEXT)」を取っていることは、採択に有利に働くことが既に公表されているが、弘前大学は昨年度に「COINNEXT」に採択されていることから、強化促進事業の採択も決して無理な話ではないと考え、現在、採択を目指して出来る限りの努力をしている。もし採択されれば、医学研究科は更なる発展のために、大きな組織改革も併せて行わなければならない。その際には、施設整備事業採択で駐車場スペースが大幅に減るようになり、組織改革は人員確保につながるもの、ある程度の痛みを伴うと思われるため、皆様の御協力が重要です。年内には結果が出ると思っておりますので、良い報告が出来ることを、今は祈念しております。



(左から) 三上教授、玉田教授、中路学長特別補佐、廣田研究科長、福田学長、富永朋社長、山岸CTO、小佐々様、村下機構長、伊藤教授

検査や腸内フローラ検査 Flora Scan® を実施し、その他の検査項目との関連解析や、疾患発症との解析を行うことで、LOX-index® を中心とした疾患発症予測に関する新たなエビデンスの構築及び、発症予測モデルの構築などを行う予定です。本講座での研究を通して、リスク検査の価値向上と疾患の発症予防につなげ、特に、日本人の死因の四分の一を占めている動脈硬化性疾患の予防に貢献することで、将来的な日本人の健康寿命延伸に貢献したいと思っております。皆様の温かいご指導・ご鞭撻をいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。伊東健

# 教授就任にあたってのご挨拶

三重大学大学院医学系研究科  
救急集中治療医学講座 教授 鈴木 圭



この度、令和五年六月一日付けで三重大学医学部附属病院救命救急・総合集中治療センターセンター長・教授（及び、大学院医学系研究科救急集中治療医学講座教授）を拜命致しました。

私は、平成十四年に貴学卒業で、卒業二年間青森県立中央病院で初期研修を致しました。学部教育から、研修医としての教育の全てを弘前大学及びその関連施設から学んだことになり、人生の一番良い時期を青森県という自然豊で美しい場所でも過ごせたこと、何より素晴らしい友人たちや、恩師らと出会えたこと、青森の患者さんから多くを教えて頂いたことは、卒業二十年あまり経っても色あせることのない私の人生の宝物です。

昨年、私用で弘前を訪れる機会がありました。僅か一日あまりの滞在でしたが、学生時代を過ごした街並みをみながら散歩をすることができました。正面からみた大学病院の姿もずいぶんと近代的になっていましたし、以前住んでいたアパートの外観はすっかり変わっており、よく通った定食屋さんも姿を消してしま

したが、町の匂いというか、雰囲気は当時の趣をよく残していて、訪れたのが初夏だったということもあり、吹き抜ける風はたまたま心地よく、遠いようでも近くに見える岩木山の雄大な姿は二十年前と全く変わらず、私が二十年前に確かにこの地で生活していたんだという実感を感じることができました。本当に良い街だったな、と心底思えた瞬間でした。

さて、近況に戻ります。私は三重に赴任してから、免疫不全と感染症をテーマに臨床、研究に取り組んで参りました。十年ほど血液内科を中心に研鑽を積み、その知識をもとに、感染症内科の立ち上げと、同じく

新設された救命救急センターに参画することになりました。当時の救急といえ、外傷や心疾患、脳疾患などが花形で、敗血症や呼吸不全はどちらかというイメージではないという扱いです。しかし、二〇一九年末に突如として全世界に拡大したCOVID-19により、感染症と救急・集中治療の関係に焦点が当てられたことは記憶に新しいところかと思えます。

現在全国に三百程の救命救急センターが設置されていますが、血液・感染症内科医が引つ張っていく救命救急センターはかなり希有だと思えますし、おそろしく、アカデミアでは例を見

ないのではないかと思います。ぜひぶん三重大学は思い切った選択をしたものだと思います。この原稿執筆時点では、本学医学系研究科の教授の中で最も若輩者です。特に医学部の仕事では右も左も分からないことばかりですが、結構出たとこ勝負で何とかなるのは、ああ、自分も救急医なんだなあ、と妙に納得しています。

場所は離れてしまいましたが、いつまでも同窓生として貴学の益々の発展をお祈りしております。私も、青森で学んだ初心を忘れず、三重で地域に根ざした集中治療型救命救急を推し進めていきたいと思えます。

各々年に一名ずつ受賞。論文の要旨ですが、当科で経験した筋萎縮性側索硬化症（ALS）の症例をその臨床経過と剖検所見を詳細に報告したものです。特筆すべきなのは、剖検所見で通常のALS病変の他に黒質線状体系および淡蒼球ルイ体系にも高度の神経変性を認めた点で、そのような病型を呈したALSは約二十年前に一例報告されただけでした。この二十年間

二〇二三年七月六日（八日に神戸市にて開催された第六十四回日本神経病理学会において、日本神経病理学会賞を受賞いたしましたので報告させていただきます。今回、筆者が筆頭著者の「An autopsy case of amyotrophic lateral sclerosis with striatonigral and pallidolusian degeneration and cat's-eye-shaped neuronal nuclear inclusions」が日本神経病理学の機関誌

であるNeuropathology (Impact factor 2.3) に一年間に掲載された論文の中で最も優れた症例報告であると、同学会の選考委員会に評価していただいて受賞に至りました。大変名誉ある賞ですので光栄に感じております。なお、筆者は二〇二〇年にも同賞の原著論文部門を受賞しておりますので、今回同学会賞は二回目の受賞です（学会賞は原著論文部門と症例報告部門で

## 第64回日本神経病理学会 2023年度日本神経病理学会賞を受賞して 脳神経内科学講座 助教 今 智 矢

の神経疾患に対する分子病態解明の進歩は目覚ましいものがあり、最新の分子病理学的知見を織り交ぜて、通常のALSおよび既報告例との違いを詳細に検討しました。受賞の決め手となったのは、ALSの病態解明に寄与していること、所見を丹念に記載していること、との



賞状を持っているのが筆者

ことです。筆者が力を入れていた部分を評価していただいたことを知って、とても嬉しかったです。報告させていただいた患者さんは残念ながら亡くなってしまいましたが、患者さんが私たちに教えてくれた貴重な経験・学ぶべき点を論文（特に英文）として他の医師等と共有することは、同じ病



## 第3回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会 第2回（2023年）優秀論文賞受賞

耳鼻咽喉科頭頸部外科 医員 中村 千 紘

この度、令和五年四月十三日（十五日）に和歌山県三好市で開催された第三回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会にて、第二回（2023年）優秀論文賞を受賞いたしました。報告いたします。『副鼻腔炎症例における血清黄色ブドウ球菌エンテロトキシン特異的IgEの検討』という題で当科外来を受診された患者さんのデータを用い、黄色ブドウ球菌エンテロトキシン（以下、SE）が好酸球性副鼻腔炎などの二型炎症に関与する可能性を調査しました。SEは局所において、Th2を介した抗原特異的な炎症のトリガーとなる可能性が以前より指摘されており、また、二型自然リンパ球を介した自然免疫による炎症も誘導していると考えられています。今回の研究は局所ではなく、血清におけるSE特異的IgE（S-IgE）CAP

気度苦しむ患者さん、そして今後の医学の発展に非常に有益であると考えております。筆末ではありませんが、本報告の共著者であり、ご指導いただいたさまざまな病理学・生命科学講座、脳神経病理学講座、脳神経内科学講座の先生方に感謝いたします。本賞の受賞を励みに、今後も目の前の患者さん一人一人を大切にしながら、診療・教育・研究に邁進して参りたいと思っております。

黄色ブドウ球菌や自然免疫に注目していきたいと考えています。本論文は長女出産と投稿予定の時期が被ってしまい、産休・育休中に完成させることを目指した論文でした。初めての子育てと初めての論文執筆でとても大変でしたが、高畑先生、松原教授にご指導いただき、なんとか形にできた論文です。この場を借りて篤く御礼申し上げます。講座内の皆さま、投稿を待ってくださった学会事務局の皆さま、ご協力いただいた患者さん、すべての方に感謝しております。今回の受賞を糧に引き続き研鑽を積んでいきたいと思っております。

第82回日本医学放射線学会総会

CyPos賞(Platinum Medal)受賞

大学院二年 梅村芳史 (放射線診断学講座)

この度、二〇二三年四月に横浜で開催された第八十二回日本医学放射線学会総会においてPlatinum Medalを受賞しましたので、ご報告致します。日本医学放射線学会総会は全放射線科医が参集する年に一回開催される学会であり、そのような会で一名のみに授与されるPlatinum Medalを受賞できたことは大変な光栄と感

じています。発表演題は、「軽度認知障害(MCI)における脈絡叢の容積変化」です。MCIとは認知機能の低下を特徴とする症候群であり、



一般的にアルツハイマー病(AD)の前駆症状と考えられています。ADへの進行を遅らせるためには認知機能低下の早期診断と介入が重要であるため、近年の画像研究ではMCIの同定に焦点が当てられています。MCIの僅かな構造変化を調べるためにMRIを用いた様々な形態解析が行われていますが、MCIなどの初期段階で正確に診断するためにまだまだ改良が必要で、最近の研究で、認知機能障害では脈絡叢容積(CPV)が増大していることが報告されまし

た。しかし、MCI群に関する詳細な検討はありませんでした。そこで我々は、CPVがMCIの独立した予測因子であるかどうかについて検討しました。今回の検討では、いきいき健診に参加された二千三百九十人を対象とし検討しました。概要は、参加者をMCI群と健常者群に二群化し、二群間に独立して関連している因子について、各脳容積を含めたロジスティック回帰分析しました。結果は、CPVは年齢や性別などの交絡因子から独立しており、さらに脳実質容積(TBV)や海馬容積(HV)に対しても有意に独立していることがわかりました。また、両群でCPVは側脳室容積(LVV)との相関性も高いことがわかりました。私たちの知る限りでは、本研究は大規模な研究データを用いたMCI患者におけるCPVの変化を検討した最初の研究です。CPVは健常者群よりもMCI群で有意に大きく、CPVはMCI患者と健常者群を区別する独立した予測因子であることがわかりました。ここで重要なことは、CPVはTBVやHVを加えた分析においても独立した予測因子であったことです。また、CPVはLVVと強い相関性があることもわかりました。今回の結果は前述で述べた先行研究と一致し、CPVとLVVの変化がMC

第183回東北外科集談会

学生奨励賞受賞

医学科四年 笠島浩希 (消化器外科学講座)

この度、二〇二三年六月に仙台市で開催された第百八十三回東北外科集談会で、「大腸穿孔の予後予測因子の検討」という演題名で発表を行いました。学生奨励賞をいただきました。ご指導賜りました袴田健一教授をはじめとする消化器外科学講座の全ての先生方にご場をお借りして感謝申し上げます。

大腸穿孔は、糞便が腹腔内に流出し細菌性腹膜炎による敗血症、さらにそこからDICを発症しやすいため、予後不良の疾患です。早期診断と手術は死亡率を低下させるために不可欠ですが、予後に関する詳細な情報は不明でした。弘前大学附属病院で治療された患者

の段階です。存在することが示唆されます。先行研究の多くも、脳脊髄液産生やクリアランス不全などADにおける脈絡叢の機能不全を示唆しており、我々の結果に一致しています。今回の研究により、CPVが認知障害の疾患進行を定量化する画像マーカーになるかもしれません。今回の研究をご指導いただいた放射線診断学講座の掛田伸吾教授、COI研究推進機構の中路重之先生、京都大学オーブンイノベーション機構の渡邊啓太先生、研究に携わった全てのスタッフの皆様にご場をお借りして感謝申し上げます。

さんにおいて、患者背景、手術治療、術後治療のデータを抽出し、統計解析を行いました。BMIや体温などの患者背景においては有意差を認めませんでした。手術所見においては穿孔部位や原因の点で有意差が生じ、左側で非腫瘍性の穿孔の予後が悪いことが判明しました。特に大きな有意差が見られたのは術後治療であり、CHDFやリコモ

ジュリンの投与が早期に行われた例において救命率が上がっていることがわかりました。つまり、大腸穿孔の予後因子としては術後治療が最も重要であり、大腸穿孔による術後敗血症とDICに対する早期治療が重症な患者さんの生存確率を高めると言えます。以上について、統計データや結論に至るまでの考察を示しながら報告しました。



これまで座学で医療を学ぶのみであった私にとっても、大腸穿孔の予後に関連する因子を予測することや、膨大な情報が書かれている患者さんのカルテから必要な情報を抽出することは難しさを感じることも多く、研究の大変さの一端を知らることができました。ま

た、医師の先生方と混ざって発表や討論をしたことも、とても貴重な経験となりました。ご指導いただき、このような機会を与えてくださった鍵谷卓司先生には大変感謝しております。この経験を活かし、さらに勉学に励んでまいります。

第106回 弘前医学会総会

弘前医学会庶務幹事 黒瀬 顕 (病理診断学講座 教授)

六月三日(土)午後、むつ市にて第百六回弘前医学会総会が開催されました。会場となったプラザホテルむつには五十人余の参加者がありました。むつ下北医師会会長三上史雄先生のご挨拶の後総会が行われ、会計および事業報告が承認さ

れました。その後、一般演題十題の発表に移りました。抗がん剤や放射線治療による症例報告が四題、薬物効果実験が二題、コロナ診療、癌細胞の増殖シグナル、冠動脈非造影magnetic resonance angiography(MRA)の有効性、授乳中の薬物体内動態を文献的に調べた薬剤師による発表がそれぞれ一題と多彩な内容で発表されました。発表の後審査委員による優秀発表賞の審査が行われ、審査員長の青木昌彦先生より弘前大学大学院医学研究科脳血管病態学講座川口章吾先生の「肥満モデルマウスの腸管粘膜障害に対する藍葉抽出エキスの効果」が選ばれたと発表され、実験に基づく粘膜炎バ

ア機能障害の改善の明確な説明がなされた旨講評がありました。さらに九十二歳で豊饒たる発表をされた総合南東北病院放射線診断科の竹川鉦一先生の「冠動脈非造影MRAの有効性の検討」が審査員特別賞に選ばれたことが披露されると会場から拍手が湧き起こりました。竹川先生は三代前の放射線科学講座教授を務められ私達後進が叱咤激励される思いでした。受賞されたお二人には賞状と記念メダルおよび副賞が贈られました。次いで令和四年度弘前医学会優秀論文賞に決まった斎藤純介先生が表彰されました。

今回のむつはインターハイ卓球県予選会が開催されたためホテルが満室の状態であり、テント泊でむつでの夜を楽しむ参加者もいたようです。今回は二〇二四年七月六日(土)、八戸プラザホテルにて八戸市医師会主催で行われる予定です。懇親会も久し振りに開催すると承っていますので、是非皆さま、八戸にご参集下さい。



学会会場の様子



竹川鉦一先生を中心に

# 第106回弘前医学会総会 審査員特別賞を受賞して

一般財団法人脳神経疾患研究所  
附属総合南北病院 放射線診断科 所長 竹川 鉦一  
(元放射線科学講座 教授)

二〇二三年六月三日、第百六回弘前医学会総会で日頃研究している冠動脈非造影MRA血管造影(MRA)の臨床的有用性を発表したところ、思い掛けず総会審査委員会より審査員特別賞の指名を受け、びつくりすると共に嬉しく存じ、感謝しております。

弘前医学会会長廣田和美教授からご丁寧な祝辞、立派な賞状、記念メダル、副賞(多額の図書券)などを拝受し感激しております。

ヨード造影剤は診断に有用ですが、ごく少数例で副作用があります。永年血管造影に従事した小生には副作用の苦い経験があります。腎機能不良、ヨード造影

# 第106回弘前医学会総会 優秀発表賞を受賞して

脳血管病態学講座 助教 川口 章吾

この度第百六回弘前医学会総会の優秀発表賞に選出させていただきました。大変光栄に存じます。ご指導賜りました脳血管病態学講座の今泉忠淳教授、消化器血液内科学講座の櫻庭裕丈教授、菊池英純先生に拝謝いたします。

今回発表したテーマは「肥満モデルマウスの腸管粘膜障害に対する藍葉抽出エキスの効果」です。高脂肪食は肥満の原因になるば

実は一九九三年ごろ弘前大学在職中に冠動脈MRAの研究をしていました。その時は第二内科小野寺庚午教授と教室員(三国谷 淳先生、他)の先生方と共同研究をしておりまして。当時は息止めをしながら冠動脈の一本ごとの撮影でした。

二〇一六年頃になってからやっと自由呼吸下での検査ができるようになり、検査がやり易くなりました。MRAの解像度がCTAにやや劣るため冠動脈MRA



第106回総会 優秀発表賞(授与 三上史雄むつ下北医師会長 受賞者 川口章吾先生 青木昌彦 選考委員長)

は高脂肪食による腸管粘膜障害にも有効な分子であるため、今回の研究ではあるも、藍の葉から抽出したエキスを投与したマウスの腸管粘膜障害に対する改善効果を検証しました。四週間の高脂肪食飼育を行ったマウスでは、結腸の腸管長が有意に短縮し、組織学的には陰窩の短縮と杯細胞の減少が認められました。また、上皮細胞間の密着結合に関連する分子であるZO-1とClaudin-1の発現が顕著に減少しておりました。藍エキスを投与したマウスで

期間は延長し、耐糖能異常や脂質異常症、脂肪肝など、肥満症に関連した病態を改善するほか、さらなる検証を行っていききたいと考えております。

# 令和四年度弘前医学会 優秀論文賞を受賞して

腫瘍内科学講座 助教 斎藤 絢介

弘前大学大学院医学研究科腫瘍内科学講座の斎藤と申します。この度は優秀論文賞を受賞させて頂いたこと、身に余る光栄と感じております。投稿させて頂いた論文は「Combined utility of maximum standardized uptake value and its change after neoadjuvant chemotherapy in predicting postoperative recurrence in esophageal cancer (PET-CT検査の集積値と変化率を用いた食道癌術前化学療法後の再発予測についての解析)」です。

食道癌は予後不良な悪性腫瘍の一つであり、術後再発症例予後は約一年とされています。切除可能なStage II・III食道癌に対しては術前化学療法(Neoadjuvant chemotherapy: NAC)の有用性が示されており、NAC治療効果判定に造影CT検査やPET-CT検査が用いられています。PET-CT検査では18F-FDG取り込みの最大量(SUVmax)を測定することで腫瘍活動性/腫瘍残存程度の評価を行います。SUVmaxの低下およびNAC前後でSUVmaxの変化の割合(ΔSUVmax)が食道癌のNAC効果判定

く、癌は切除可能な段階で発見されることや術後無再発で経過することが望ましいです。再発率を下げ、癌の根治につながる研究が今後も報告され、一人でも癌に苦しむ患者が減ることを願います。



令和4年度優秀論文賞(選考委員長代理 黒瀬頭先生 受賞者 斎藤絢介先生 授与者 袴田健一 会長代行)

# 令和5年度 鵬桜会定時総会に 出席して

鵬桜会理事 今泉 忠 淳  
(脳血管病態学講座 教授)

鵬桜会は、弘前大学医学部医学科の同窓会組織です。「鵬」は弘前城の桜に由来します。「荘子」を知らない方は調べてみて下さい。

令和五年五月二十七日、令和五年度の鵬桜会総会が、弘前大学創立五十周年記念会館において開催されました。澤田雅章常務理事(昭和六十二年卒・さわだ 整形外科クリニック院長)の司会のもと、物故会員に対する黙祷を行い、その後、澤田美彦理事長(昭和五十二年卒・沢田内科医院

前院長・弘前市医師会長)の挨拶がありました。八木橋勇治監事(昭和四十八年卒)から監査報告、須藤武行常務理事(平成四年卒)から決算報告、澤田雅章常務理事から庶務・事業報告がありました。大山力前弘前大学医学部附属病院院長(昭和五十九年卒)と副島 薫氏(昭和六十年卒)が理事を退任され、新たに、袴田健一 新弘前大学医学部附属病院院長(昭和六十年卒)が理事に就任されました。鵬桜会の事業としては、弘前医学会、弘前大学(次ページへ続く)

# 令和5年度 弘前大学 成績優秀学生表彰

学務委員長 鬼島 宏  
(医学教育学講座 教授)

成績優秀学生表彰は、各学部（医学部は医学科・保健学科）の各学年で前年度の成績が優秀であった学生を表彰する取組みで、平成

二十一年度にスタートし、今年で十五年目となります。令和五年八月七日（月）に文京キャンパス・創立五十周年記念会館にて「教育

の決意を語ってくれました。学部学生については前年度の履修科目の平均点をもとに選抜されました。昨年度までの新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの履修環境ということでも苦

励みにさらなる発展を期待しています。

に文京キャンパス・創立五十周年記念会館にて「教育に関する優れた業績を上げた教員・成績優秀学生」表彰式が行われました。福田眞作学長から一人一人に表彰状と副賞が贈呈されました。学長からは祝辞とともに、今後も大いに活躍されることを期待している旨の励ましの言葉をいただきました。医学科五年 藤元琢也さんが全学生の代表として挨拶を行いました。今回の表彰は、友人たちと一緒に学んだことの成果でもあり、この表彰を励みにさらに勉学にいそしんでゆき、将来の目標をかなえたいと

の決意を語ってくれました。学部学生については前年度の履修科目の平均点をもとに選抜されました。昨年度までの新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの履修環境ということでも苦

励みにさらなる発展を期待しています。

の決意を語ってくれました。学部学生については前年度の履修科目の平均点をもとに選抜されました。昨年度までの新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの履修環境ということでも苦

の決意を語ってくれました。学部学生については前年度の履修科目の平均点をもとに選抜されました。昨年度までの新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの履修環境ということでも苦

励みにさらなる発展を期待しています。



（前ページより）  
院医学研究科主管の学会、弘前大学医学部医学科学会への助成、弘前大学医学部学術賞受賞者へのメダルの贈呈、鵬桜会報（二年に一回）の作成などがありま

森医学専門学校の第一期生の卒業は昭和二十四年（一九四九年）です。弘前大学医学部は、令和六年に創立八十年を迎えます。私たちが弘前大学医学部・医学研究科・附属病院・関連病院で学び、働くことができて



## 令和5年度 弘前大学医学部医学科 成績優秀学生

- |           |       |       |
|-----------|-------|-------|
| 医学部医学科2年  | 渡谷 夢海 | 長内 駿典 |
| 医学部医学科3年  | 上野 裕貴 | 藤元 琢也 |
| 医学部医学科4年  | 藤元 琢也 | 岩城 嘉乃 |
| 医学部医学科5年  | 岩城 嘉乃 | 武田 寛人 |
| 医学部医学科6年  | 武田 寛人 |       |
| 医学研究科/院2年 |       |       |



今年度は実験動物慰霊式を六月十六日に執り行いました。あいにくの雨模様にもかかわらず、多くの方に出席していただきありがとうございました。

例年通り屋外での慰霊式に引き続き講義室での記念講演を開催しました。弘前大学医学部附属病院整形外科講師熊谷玄太郎先生にお願いし、「Muse細胞を用いた脊髄再生医療の実現に向けて」の演題にて講演いただきました。Multineage-differentiating stress enduring (Muse) 細胞は間

### 令和5年度 実験動物慰霊式

附属動物実験施設長 上野 伸哉  
(脳神経生理学講座 教授)



葉系組織に主に存在し、多様な細胞に分化しうる多能性幹細胞です。幹細胞としての利点として腫瘍発生がなく、様々な組織から得られるため細胞採取が容易であること、損傷部位にみずから移動し、損傷を修復することが知られており、再生医療への応用が期待されている幹細胞です。

熊谷先生は、一貫して脊椎損傷による麻痺の治療を目指し、臨床と研究を進めています。本講演では脊髄損傷へのMuse細胞の臨床的応用への実際と、臨床応

用に必要な情報を動物実験にて検討する過程が紹介されました。トランスレーショナルリサーチの非常に良い例が示されたと思います。本講演には医学科三年次学生の参加が義務付けられており、また三年次後期に行われる研究室研修で多くの学生が動物実験に参加する機会を得ます。新たな治療開発には動物実験と臨床研究が両輪となって進んでいくことを実感できましたか

と思います。

生命科学や医学の分野において、動物実験は3R (Reduction (使用数の削減) Replacement (代替法の利用) Refinement (苦痛の軽減)) に代表される動物福祉を考慮して実施すると同時にその成果を社会に発信する必要があります。今回のトランスレーショナルリサーチの一例は動物実験による成果としての社会的意義が具体的に示されたもののひとつだと思います。

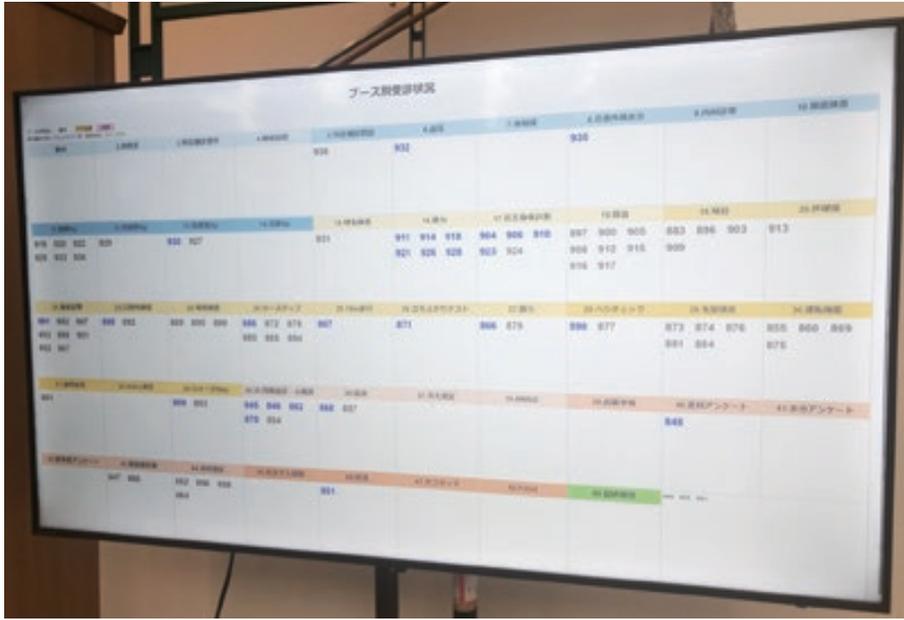
今後も、3Rを考慮するとともに成果を社会に発信し社会的意義を示すことも念頭に適正な動物実験の実施をお願いいたします。

# 岩木健康増進プロジェクト プロジェクト健診、いきいき健診を終えて

弘前大学COI顧問 中路 重之  
(社会医学講座 特任教授)

令和五年五月八日、新型コロナウイルス感染症の感染法上の分類が、二類相当から五類に引き下げられました。この三年間、その対策に苦しみられてきた岩木健康増進プロジェクト・プロジェクト健診といきいき健診(認知症コホート研究)もようやく解禁の季節が来たわけです。「従前に戻す! 原点復帰! フルバジョンへ!」が今年の我々の合言葉でした。

例年通り、健診会場には大学、企業、自治体(弘前市)、住民の皆さん(多種の健康リーダー)が集結し、多学部・学科の学生の皆さんの講義にも活用させていただきました。今年から両健診ともに「デジタル健診」、デジタル元年」と銘打ちました。例えば岩木健康増進プロジェクトの場合、全部で四十九のブースがあるのですが、その各ブースで個人に振り当てられたQRコードを専用スマホで撮影することで、通過チェックをす



ブース別受診状況 (デジタル健診)

【いきいき健診(認知症コホート研究)】五月二十四日から三十日までの七日間実施しました。会場は、岩木健康増進プロジェクトと同じ、岩木文化センターあそべーる。二グループ(各々約千二百人)のうち後半グループの皆さんで、全期間(十年)のうちの中間地点での検査でした。測定項目数もほぼ例年通りでした。受診者は例年よりやや少ない七百五十

【岩木健康増進プロジェクト・プロジェクト健診】六月三日から十二日までの十日間、岩木文化センターあそべーる」と中央公民館岩木館で実施しました。受診者数(約九百五十)、検査項目数ともにほぼ例年通りでした。新しい測定項目は、皮膚ガス、AGEs(最終糖化産物)、歯肉血流量、皮膚の健康度(はり、しわなど)、肩関節のMRI検査などでした。昨年からは、脳波の簡易測定、涙液検査なども好評でした。開催期間中はマスクなどの取材、見学者が引きも切らずその注目の大きさを示していました。いきいき健診と合わせて櫻田宏市長にも訪問していただきました。

## さらなる飛躍に向けて 一歩前進の努力を!

分子生体防御学講座 教授 伊東 健

医学研究科および附属病院における令和五年度の科学研究費採択状況が公表されました。まずは新規交付内定額の年次推移のグラフをご確認下さい(いずれの年度も比較のために八月一日現在の時点での途中経過の値を使用しています。そのため研究活動スタート支援、海外連携研究(旧国際共同研究強化(B))は集計から除いています)。医学研究科における新規の交付内定額は昨年度に比べ一千三百万円ほど、附属病院では約六百万円ほど減少しました。医学研究科では、基盤Bや基盤Cの採択数が減少したこと、附属病院では若手研究の採択数が大幅に減少したことが要因かと思われました。令和四年度には、大学全体の科



両健診とも、受診者の皆様は毎年とても楽しみにしておられます。両健診ともに健診後の「土産」も多く(重く)、最後は笑顔の出る健診となりました。そこそが両健診の本当の価値だと思います。昨年JST、文部科学省のCOINNEXT(COIはcenter of innovationの略)に採択されました。今後、最高十年間継続できる大事業です。今後COINNEXTでもこの両健診が活動の中心

### ○令和5年度科研費 申請・内定状況(新規)

部局名	申請件数	採択件数	採択率(%)	交付内定額(千円)
医学研究科	150	29	19.3%	54,730
医学部附属病院	102	15	14.7%	25,620
計	252	44	17.5%	80,350

### ○令和4年度科研費 申請・内定状況(新規)

部局名	申請件数	採択件数	採択率(%)	交付内定額(千円)
医学研究科	149	30	20.1%	67,730
医学部附属病院	113	20	17.7%	31,540
計	262	50	19.1%	99,270

### ○令和3-5年度科研費 研究種目別内定状況(新規)

研究種目名	医学研究科			医学部附属病院			合計		
	R3	R4	R5	R3	R4	R5	R3	R4	R5
基盤研究(S)							0	0	0
基盤研究(A)							0	0	0
基盤研究(B)	4	2	1				4	2	1
基盤研究(C)	23	20	17	6	7	9	29	27	26
特定領域研究							0	0	0
新学術領域研究							0	0	0
挑戦的研究(開拓)		1					0	1	0
挑戦的研究(萌芽)			1				0	0	1
若手研究	7	7	10	9	12	4	16	19	14
特別研究促進費							0	0	0
研究成果公開促進費							0	0	0
特別研究員奨励費							0	0	0
奨励研究	1			2	1	2	3	1	2
合計	35	30	29	17	20	15	48	50	44

## 「高校生手術体験セミナー in 弘前」を開催して

消化器外科学講座 助教 室谷 隆裕

二〇二三年六月十七日、弘前大学医学部コミュニケーションセンター(MC)を会場として「高校生手術体験セミナーin弘前」を開催いたしました。青森県の高校生に医学や医療に関心を持ってほしい、医療



職を目指してほしいとの趣旨から本学所属ならびに県内の外科医が中心となり、二〇〇九年から青森市、八戸市、弘前市をはじめとした各都市で毎年開催してきたこのセミナーですが、コロナ禍の影響を受けて二〇二〇、二一年は中止を余儀なくされ、昨年は規模を縮小しミニコロナでの開催でした。今年には新型コロナウイルス感染症が五類に移行して最初の開催であり、感染対策に配慮しつつ、コロナ前に近い形で開催することといたしました。本セミナーには弘前高校、八戸高校、青森高校、五所川原高校など十四の高校から四十八名の高校生が参加し、スタッフとして県内研修医を含めた医師三十名、医学士二十名、協力企業関係者を含めて総勢六十名を越える皆さんにボランティアとして参加いただきました。オリエンテーションが済み、術着に着替えていよいよ手術体験プログラムの開始となります。今回は実際の手術室を再現した手術室体験コーナーや人体モデルを使った縫合コーナー、エネルギーデバイスなど手術機器体験コーナー、内視鏡外科手術、3D手術体験コーナーなど六つのブースを用意し、医師とのマンツーマン(次ページへ続く)



(前ページより)  
マンでの手技体験からチームでタスクを成し遂げる体験もあり、いずれのブースも活気にあふれていました。昨年できなかった本セミナー恒例の自動縫合器を使う際の「ファイヤー」の合唱は四年ぶりに解禁となり、序盤は恥ずかしながらも、学生が多かったですが、会場が熱気に包まれるにつれ、参加者の皆さんも声が出るようになり、四年分の「ファイヤー」が会場内にこだましていました。

途中、休憩時間を利用してのミニレクチャーを弘前高校OBである当科の二名の先生にいただきました。横山和樹先生からは医学生生活、研修医生活、外科医生活と自分の歩んできた道のりについてお話しいただき、三浦卓也講師からは臨床、研究についてのお話しを高校生にとどまらず、医学生、研修医へ向けた熱いメッセージをいただきました。プログラム後半では参加者、スタッフともに緊張がほぐれてきて手技体験だけでなく、高校生からの何気ない質問や時に核心をつくような質問が出るようになり、参加した研修医、医学生も高校生に近い



目線で話してくれていました。四時間に及ぶセミナーは、熱気に包まれつつ終始和やかに進み、袴田健一教授、石戸圭之輔准教授からの修了証の授与で終了となりました。高校生にとって身近な目標である医学生や研修医の皆さんとのふれあいがあるのが刺激となり、今後もモチベーションアップにつながったと思います。

外科手術体験セミナーをコロナ前に近い形で開催することができてよかったと思います。この活動を通じて一人でも多くの学生に医学の道に進んでいただければと考えております。最後に本セミナー開催にあたりご協力いただいた多数の先生方、医学生の皆様、企業の皆様に心から感謝申し上げます。

**【開催報告】**  
**第78回日本消化器外科学会総会の函館市開催を終えて**

消化器外科学講座 准教授 石戸 圭之輔

令和五年七月十二日から十四日に函館市にて、第七十八回日本消化器外科学会総会が開催されました。本総会は参加者総数が七千人を超える極めて大きな外科系全国学会の一つです。今回、本総会の企画運営を担当し、盛会に終えられたので報告させていただきます。

本総会は年に一回開催される消化器外科領域の全国学会です。歴史は古く、一九六八年に千葉大学の中山恒明教授により発足され、同年に第一回総会が開催されました。これまで東北地方の大学が担当した消化器外科学会の開催は、第六十九回総会の福島県立医科大学、第十四回大会の山形大学の二回しかなく、弘前大学にとっては、非常に貴重な機会を得ることができました。本来は開催担当大学のある都市で開催するのが通例なのですが、三日間で七千人を超える参加者に対応する学会開催は弘前市や青森市では困難であり、青森県と文化交流が多く、大人数の受け入れが可能なイベント会場が豊富な函館市で開催することとなりました。函館市は当講座の連携施設である函館市立函館病院もあり、同院の先生方や函館市関係者の方々の大きな協力をいただくことができました。

「Harmony across boundaries」を掲げ、このテーマに合致するように学術内容や企画を準備いたしました。総会では、消化器外科学における限界を超えるような治療や研究に関して、全国の先生方による熱い討論が繰り広げられました。また、学術以外の文化企画も多く盛り込まれました。企画の一つとして、弘前大学三味線サークルの皆様による津軽三味線披露も行われました。弘前大学の学生達による力強い演奏は、参加者の皆様に魅了しておりました。また弘前市は、大型ねぶたを笛や太鼓の囃子とともに披露していただき、会場の皆様に大きな感動を与えてくれました。一方で、函館市は土地勘のない我々を全面的にバックアップして下さい、まさに縁の下な力持ちとなつて多くの企画運営を支えて下さいま



した。函館市と弘前市による素晴らしい「ハーモニー」は、本総会を成功に導く大きな力となりました。本総会を袴田健一教授が会長として開催することが決まってから約五年間、少しずつ少しずつ計画を進めてきました。袴田教授を中心として、より質の高い学術内容と皆様に満足していただけるおもてなしを目指して、多くの職種の方を含めて何回も議論を重ねてまいりました。最終的に総会は盛会に終わり、参加者の方々から素晴らしい学会で頂くと褒めたい言葉を多く頂くと感じています。また、これまでに感じたことのない安堵感を、同時に感じているのは私だけではないと思います。

**【開催報告】**  
**第59回日本腹部救急医学会総会の沖縄開催を終えて**

大館・北秋田地域医療推進学講座 准教授 坂本 義之

二〇二三年三月九日(木)・十日(金)の二日間、沖縄コンベンションセンター(宜野湾市)において第五十九回日本腹部救急医学会総会を開催させていただきました。日本腹部救急医学会総会を弘前大学が担当させていたのは、二〇〇三年に前任の佐々木睦男名誉教授が開催されて以来二十年ぶり、二回目となります。本来であれば当講座教授の袴田健一先生が会長ですので地元弘前市あるいは青森市で開催しなければならぬところでありましたが、参加人数が二千人超と予想され宿泊ホテルに限りがあったこと、開催時期が三月とまだ交通状態に雪の影響が考えられることから地元での開催は困難と判断。そこで他の開催地を検討したところ、①宿泊・交通が十分に対応可能、②私どもと人事交流のある病院が所在すること、③救急医療の充実が図られてきた歴史を有すること、などの理由からちょうど本土復帰五十周年を迎える二〇二三年は新たな五十年の始まりの年にあたる沖縄開催が妥当ではないかとの結論に至りました。本学会は我が国の

ご報告いたしました。本総会開催に暖かいご支援とご協力を賜りました関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

腹部救急診療を担う外科医、内科医、救急医、放射線科医、内視鏡科医ら五千人余の会員から構成されており、指導医と若手医師が一堂に集い、領域横断的な本学会の特徴を活かして日頃の腹部救急診療の課題を共に議論するにはこの上ない場所であると自負するところがあります。ところが、地元ではない都市での準備には困難を極めました。二〇一八年十二月の沖縄県内の複数の会場視察から始まり、関係各所への挨拶回り、学会理事会での承認を経て、本格的に活動を開始しましたのが総会の約二年前であります。プログラムの作成、会場の構成、全員懇親会の準備など細部まで拘ればキリがありませんでしたが、参加者に楽しんでいただ



るよう幾度となく運営事務局と打ち合わせを重ねました。ちょうど時期が新型コロナウイルス感染症の拡大とも重なり、webを介しての打ち合わせが中心でなかなかこちらの意向が伝わらないことにストレスを感じたりもしましたが、感染が弱まりつつあった直前半年間は袴田教授と直接現地を訪ね、現地スタッフ、ホテル、会場の方々と重要事項を確認いたしました。実際、参加された方々は医師、メディカルスタッフ、研修医、学生を含めて二千五百人あまりで、天候にも恵まれ(会場脇のビーチでの全員懇親会の際はスコールにやられました)盛会であつたように思います。ご協力いただきました全て(次ページへ続く)

(前ページより)  
の方々、そして何より開催  
にあたり共に苦労した講座  
です。

医局員に感謝の意を表し、  
学会報告とさせていただきます。

【共同研究報告】

# 7連覇を目指す名城大女子 駅伝部を弘前大学医学部で サポート

むつ下北地域医療学講座 講師 佐々木 英嗣

本年もまた十月の全日本  
大学女子駅伝(杜の都駅  
伝、仙台市)における七連  
覇を目指す名城大女子駅  
伝部のメディカルサポート  
が四月から本格始動しまし  
た。

弘前大学医学部と本チ  
ームの関係は二〇一〇年に始  
まりました。スポーツ医科  
学分野でもコンディショ  
ニングに関するフィールド活  
動を得意とする社会医学講  
座(中路重之特任教授、梅  
田孝元准教授)を中心に整  
形外科学講座(石橋恭之教  
授)も連携し、本チームへ  
のメディカルサポート事業  
がスタートしました。本事  
業は同時期に名城大女子  
駅伝部の米田勝郎監督が本  
学社会医学講座にてアス  
リートのコンディショニン  
グを研究するために博士課



女子駅伝部の寮内でのメディカルチェック

とでした。  
本サポート活動が始ま  
った当初から私も大学院生と  
して参加させていただきま  
した。当時はけが人も多  
く、お世辞には「勢いのあ  
るチーム」とは言えない状  
態でした。しかしながら選  
手たちのひたむきに競技に  
向き合う姿勢は「真摯」そ  
のものであり、強く心打た  
れことを今でも記憶してお  
ります。当初は勝ちにこだ  
わるために極限まで体脂肪  
率を落とし、オフシーズン  
もなくトレーニングを継続  
するため疲労骨折や貧血  
により競技離脱する選手も  
少なくありませんでした。  
勝ちを求めて、選手、監督、  
コーチともに何かに追い込  
まれているかのように練習  
量、練習強度を増やしてい  
るのうに見えました。我々

は問題点を抽出すべく梅田  
先生を中心に定期的な身体  
組成測定、骨密度測定、骨  
代謝マーカー測定、血液検  
査による貧血や筋疲労評  
価、身体診察によるタイト  
ネス評価や疼痛部位のケ  
ア、疲労骨折のスクリーニ  
ング、心理テストとあらゆる  
面から問題点を抽出し、  
その対処法を監督、コー  
チ、選手本人と個別に面談  
しながら検討を繰り返しま  
した。さらに本チームへは  
名古屋学芸大学の管理栄養  
学部による栄養管理、産婦  
人科医による月経に関する  
問題への対策、メンタルト  
レーナーによる心理面への  
配慮など幅広く選手をサ  
ポートする体制を徐々に整  
えることができました。そ  
してアスリートのコンディ  
ショニングを研究してきた  
米田監督は弘前大学で学ん

だ知識をもとに、「選手の  
考え」を優先する独自の指  
導方法を確立しました。こ  
の「選手の考え」には勝つ  
ための練習プログラムの作  
成のみならず、自身の身  
体・精神コンディションを  
セルフチェック、セルフケ  
アすることまで含まれてお  
り、このような取り組みを  
通じてチーム全体の結束力  
が強まったことは間違いあ  
りません。

その成果が実り、二〇一  
八年の杜の都駅伝では十二  
年ぶりに日本一に輝き、現  
在まで六連覇を達成し、翌  
年からは年末の富士山駅伝  
にも勝利し二冠連覇を維持  
しております。弘前大学に  
もファンの方が多くいらっ  
しゃり、毎年応援しても  
らっていることもうれし  
い限りです。当初、毎年三  
四例発生していた疲労骨折

がここ最近ではほぼ見られ  
なくなり、貧血で走れなく  
なる選手もいなくなりました。  
た。選手が100%の力を発揮  
し、のびのびと大舞台で勝  
つ姿を見て、私は毎回  
感動をいただきました。これ  
まで十二年間我慢して、努  
力して、実らなかつた先輩  
の思いを引き継ぎながら走  
りぬいた選手、それを支え  
た監督、コーチ、サポート  
チームの喜びは測りしれな  
いものがありますし、それ  
を継続できていることがこ  
のチームの魅力でもあると  
感じています。これまでの  
弘前大学・名城大との深  
い絆から、今回の提携を通  
じて、駅伝競技に限らず、  
さらに発展して新たなもの  
を生み出していただければと考  
えています。

級生の自己紹介は興味深い  
ものでした。理想の医師像  
に学問的に成し遂げたいこ  
とを挙げる人もいれば、人  
柄としてなりたいものを挙  
げる人もいました。目指す  
ものはそれぞれ違いました  
が、皆が皆熱意を持ってお  
り、そのような人達と共に  
切磋琢磨していけることを

ありがたく思います。  
一年生は最も忙しくない  
学年だと聞いております。  
よって、COVID-19の影響  
で高校時代にできなかった  
心残りもすっかり解消し、  
来年度からの勉学にも備え  
ることができたらと思いま  
す。残り半期も気を引き締  
めて参ります。

# 学生だより

## 学生だより 弘前大学に入学して

### 弘前大学に入学して

医学科一年 手代森 嵩葵

弘前大学に入学してもう  
四か月が過ぎようとしてい  
ます。高校時代、特に受験  
期とは全く異なる時間の流  
れに驚かされます。良くも  
悪くも色々なことがあり、  
話のタネに困らない切り出  
しでした。一生の思い出と  
なるような出来事を体験で  
きたことは嬉しく思います。  
迷路のような弘前の地に

慣れる前に始まった大学生  
活は、不慣れゆえの心配に  
悩まされる日々でした。ど  
こに行くにしても、何をす  
るにしても正解が分から  
ず、友人や先輩方を質問攻  
めにして困らせてしまいま  
した。今更ながら反省して  
います。ありがとうございます  
でした。弘前市に住んでみ  
てわかったことは、本州最

北端の青森県にあると思え  
ないほどに暑いことです。  
先日はついに摂氏三十九度  
を超えました。移り住む前  
はその寒さや積雪量の多さ  
を気にかけていましたが、  
夏の暑さも油断ならないの  
だと身をもって感じまし  
た。日が照り付ける中、自  
転車を立ち漕ぎしても歯が  
立たない上り坂をなんとか  
超え、目的地が見えている  
のに直進できない道を行く  
過酷さは想像もしていません  
ものでした。まだまだ続く  
だろう猛暑に気を付けて生  
活したいです。講義の中で  
印象的だったのは、臨床医  
学入門の最初の講義です。  
課題は自己紹介と理想の医  
師像を同じ学科のみんなの  
前で発表することでした。  
私の母校は県外出身の学生  
がほとんどいない高校だっ  
たので、海外の高校を卒業  
した人もいる多種多様な同

四月に弘前大学に入学  
し、早くも前期の講義が終  
了しました。地元の弘前大  
学で学べることに喜びを感  
じながら、毎日を過ごして  
います。勉学にサークル活  
動、友人との交流などで過  
ごしたこの数か月はとても  
充実しており、瞬間に過  
ぎてしまいました。今年度  
は新型コロナウイルス感染  
症による制限もあまりなく、  
対面授業やサークル活動も  
順調に行っており、パンデ  
ミック前の日常に戻りつつ  
あるな、と感じています。  
勉学の面においては特に  
高校までとの違いが多く、  
慣れるまでは苦労しました。  
大学では講義が始まる時間  
も終わる時間も人によって  
異なり、自分自身で時間管  
理をする必要があります。  
また、課題の提出期限やテ  
ストの日程も講義によって  
異なり、それぞれを把握す  
ることも苦労しました。  
それでも、同じ講義を受け  
ている友人と情報共有する  
ことでなんとか乗り切るこ  
とができました。友人とは  
一緒にテスト勉強をすること  
もあり、効率よく、かつモ  
チベーションを保ちながら  
勉強することができました。  
専門科目の講義では、医

から精進していきます。

医学科一年 石岡 佑 紳

### 弘前大学に入学して

師としての心構えや考え方  
を学ぶことができました。  
入学当初は医学科に入学し  
た実感があまりなかったの  
ですが、講義を通して徐々  
に実感が湧き、入学前より  
ももっと自分と向き合える  
ようになったと感じます。  
課外活動については、医  
学部クイズ研究会の新設に  
注力しました。高校時代の  
先輩でもあり、現在も弘前  
大学の医学部医学科に通っ  
ている先輩に医学部クイズ  
研究会を新設したいと入学  
前から相談しており、四月  
からサークル新設に向けて  
動き出し、六月には正式な  
サークルとしての承認をい  
ただけました。現在は十名  
程の会員がおり、毎週クイ  
ズを楽しんでいます。  
大学生になり、講義や  
サークル活動で人との繋が  
りの大切さを認識する機会  
が多くなりました。友人や、  
講義・サークル活動などで  
関わってくださった先生方  
の協力が無ければ、こま  
で充実した生活は送れませ  
んでした。人との繋がりに  
感謝しながら、出身地でも  
ある弘前で、人の為、自分  
の為に良く学び、教養のあ  
る人になれるように、これ

### 解剖学実習を経て学んだこと

医学科二年 岡本 遥

二か月半の解剖学実習はあまりにも短く、そして人生で最も濃密な時間でした。授業で学んだことを自分の手で割出して目で見ることに喜びを感じ、熱中していると、気づけば終了の時間が来るといふ毎日でした。

この実習により、私の医学と向き合う姿勢が大きく変化しました。私が医学部を志望したころの動機は、医師として人を相手にすること以上に、自分が人体の構造を追及することに興味があったためでした。実際、解剖学実習では私が望んでいた以上の感動を得られました。神経の走行、筋肉の拮抗など、人体の巧妙さが私の興味を掻き立てました。しかし、それ以上に学んだことがあります。人体のつくりは精巧ですが、唯一の正しい型は存在しません。破格が存在するのは、その構造で体内の機能に問題が起らないためです。人体は柔軟に変化に富むことを目で見て、体の構造に対する意識が私の中で転換したのを感じました。さらに、使われない筋肉は退化し、喫煙すると肺は黒くなる、というように、人

### 解剖学実習を終えて

医学科二年 木村 暖

解剖学実習が始まる日、実習室に白いビニールがかけられたご遺体が並んでいるのを目にしたときに感じた緊張を今でも鮮明に覚えています。最初は得体的に理解できない恐怖や解剖学を十分に理解できるかという不安がありました。しかし、医学科二年 木村 暖

意思によってご遺体を決めた方々のことを改めて考えたときに、この実習から実りある学びを得て、将来社会に役立つ医師にならなければいけないという覚悟が出来ました。

### 解剖学実習を終えて

医学科二年 花島 陽向

未知なる世界への淡い期待と緊張が入り混じった複雑な気持ちを抱き、私は実習室へ足を踏み入れた。整然と安置された御遺体、神妙な面持ちで実習に臨む同期の仲間たち。厳かな空気が包まれた実習初日の光景は今も脳裏に焼きついて

二か月間という短い期間の中で、先生のお身体の全ては学び尽くせなかったと感じていますが、先生と真摯に向き合い、可能な限り多くのことを学ぶことが出来たと感じています。先生から学んだ知識、そして解剖学実習を通して感じた責任感や学ぶことの楽しさは、私のこれからの人生の中でかけがえのない支えとなってくれたいと確信しています。ご遺体していただいた先生方、そしてそのご遺族の方々、思いに報いるためにも、解剖学実習での経験を生涯忘れることなく、実習で感じた覚悟を胸にとどめ、これからの学習に取り組んでいきます。

最後になりましたが、解剖学実習のためにご遺体いただいた方々、そしてそのご遺族の方々、心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

とって初めての患者さんであり、最高の師である御遺体にメスを入れた。実習は感動の連続だった。複雑な構造の剖出に苦慮し、「破格」に戸惑うことも多々あった。しかし、そこには無機質な文字の羅列である実習書や模式化された図譜からは決して学ぶことのできない「個性」が詰まっていた。御遺体の構造一つ一つが、その方が歩んできた人生の縮図である

といつも過言ではないだろう。正常構造を理解することの重要性に異議はない。だが、座学で学んだ知識を体系化し、「個性」の意味するところを自らの頭で考えることこそ真の学びであり、生きた知識を身につける術ではないだろうか。「医学とはゴールのない学問であり、生涯をかけても極めることのできない、高く険しい道のりだ。」実習中、そんな考えがふと頭をよぎった。自らの知識を総動員しても答えを見出すことのできない問いが、幾度となく目の前に立ち上ってきた。その都度、自ら学び、理解する必要がある。実習を通して身につけ

### 写真コラム (21) 青森駅のホーム

脳血管病態学講座 教授 今泉 忠 淳



【写真1】青森駅ホーム、2022年

仕事や旅行などで、青森駅を利用する人も多いと思いますが、青森駅のホームはとても長いです【写真1】。昭和時代には、上野・青森間に、「はくつる」、「八甲田」、「ゆうづる」、「十和田」、「あけぼの」、「津軽」など、多くの夜行列車が運行され、それらの列車は、10両くらいの長い編成が多かったです。上野からの列車で青森駅に着くと、私はホーム南側の橋を渡って弘前行に乗り換えましたが、多くの北海道へ行く人たちは、長いホームを北側の青函連絡船乗り場へと向かいました。青函連絡船は、青森と函館の間に運航されていた航路で、1904年（明治41年）に開設され、1988年（昭和63年）に青函トンネルの開業にともない運航を終えました。現在の青森駅では、長い編成の列車が発着することもなく、長いホームの北側が使われていませんが、その長いホームは昔のままで、30年以上を経ても「連絡船」の文字が残っています【写真2】。

私が弘前大学医学部の学生であった頃には、北医体や旅行などで函館、札幌、旭川などへ行くために、青函連絡船に乗りました。青函連絡船では青森・函館間は約4時間かかりましたが、結構混雑していました。現在では、北海道新幹線で新青森駅から新函館北斗駅まで約1時間ですが、乗客は少なくなっています。



【写真2】連絡船の文字、2022年

### 解剖学実習を終えて

医学科二年 阿部 みなみ

たのは、自己研鑽の姿勢が不可欠なこの世界に挑戦することへの強い覚悟だった。思い返せばあつという間の二か月だった。予復習に明け暮れ、心身ともに疲れ果てることも多々あったが、解剖学を学べる喜びと感謝に満ち溢れた日々だった。間違いなく人生で最も濃密な時間であっただろう。これもひとえに御遺体してくださった方とその御遺族のおかげである。未来の医師のために、自らの意志で御身を捧げてくださった方々にとって、その偉大な決断が「正解」となるように、私たちは一生懸命に勉強してまいります。

この度、私たちに解剖学実習の機会を与えてくださった、ご遺体の方々とそのご遺族の方々、この場をお借りして、心より深く感謝申し上げます。実習では、身体の様々な構造を見て、触れることで、その配置を立体的に理解することができ、授業や本で得られた知識がより鮮明になりました。また、それら一つひとつが複雑な機能を持って、動いていたことへの不思議さを感じ、発見や学びを班員と共有できた喜びは何にも代えられない

ものです。わかることが増えるほど、わからないことの膨大さに気付き、圧倒される日々はあつという間に過ぎていきました。一度、歯科医師として病院に勤務し、患者さんが亡くなられたとき、ひとりの人生に家族や友人など大勢のひとりが関わっていること、生死の境は必ずしも白黒はつきりとしたものではないことを知りました。実習が終了し、命に関わる仕事を選んだことに、改めて大きな責任を感じています

(次ページへ続く)

(前ページより)  
 す。ご献体の方が歩んでこられた人生や自らの御身体を提供しようと思われた動機、ご家族の方々の思いは想像することしかできませんが、よりよい医療への期待や思いやりのある医師になつてほしいという願いが含まれていると考えます。  
 実習のなかで、ご献体の方々から利他の精神とその温かさを感じ、その御心に敬意を持つとともに、命の尊さという当たり前の事実について考えるきっかけとなりました。十分な医学的知識に加えて、自分自身が人のために何ができるかを

考える想像力や、その人の生き方や価値観を大切にすることが求められています。円滑なコミュニケーションを基礎として、チーム一丸となつて臨むためにも、人とのつながりは欠かせないものであり、医師になる上での心構えとして何よりも重要なことだと感じます。  
 五年生も折り返し地点となりました。今後も様々な出会いに恵まれながら、多くの経験をすることが出来る

と考えると、楽しみでありません。いささか気の早い話ではありますが、来年末には医師国家試験を受験し、無事合格すれば晴れて医師となります。将来は、実習を通じて学んだ知識や技術を生かしながら、人とのつながりを大切にできる医師になりたいと考えております。  
 最後に、実習を通じて出会った全ての方々に対し、心より感謝申し上げます。

と考えると、楽しみでありません。いささか気の早い話ではありますが、来年末には医師国家試験を受験し、無事合格すれば晴れて医師となります。将来は、実習を通じて学んだ知識や技術を生かしながら、人とのつながりを大切にできる医師になりたいと考えております。  
 最後に、実習を通じて出会った全ての方々に対し、心より感謝申し上げます。

## 学生だより クリクリンを終らせて

### 出会いに感謝

医学科五年 新谷 龍生

年々暑くなつてきていることを肌で感じながら、弘前での五度目の夏を迎えました。入学した当初、白衣に袖を通して歩く先輩方は遙か遠くの存在に感じていました。しかし時が過ぎるの

を、毎日の様に感じるようになってきます。百聞は一見に如かずとはよく言ったもので、実際に自分自身で見ると、聞いて、体験するということは何よりも効果的な学習方法であると実感します。  
 さて、知識や技術も重要ではありますが、この実習を通じて最も大切だと感じたのは、「人とのつながり」です。実習では、一年間を共に過ごす班のメンバーや、各科の先生方、看護師の方々、そして患者さんなど、実に多くの出会いに恵まれています。そのどれもが、かけがえのないものであり、私を支え、成長させてくれます。入学当初より「チーム医療」が重要視さ

中心であり、臨床の場との結びつきが薄いものであったため、いまひとつ実感が伴わないものでありました。ですが、実習の中で臨床の現場に触れながら行う学習は、非常に貴重かつ有意義なものであり、点と点が繋がり線になる感覚や、医師になる者としての自覚

を、毎日の様に感じるようになってきます。百聞は一見に如かずとはよく言ったもので、実際に自分自身で見ると、聞いて、体験するということは何よりも効果的な学習方法であると実感します。  
 さて、知識や技術も重要ではありますが、この実習を通じて最も大切だと感じたのは、「人とのつながり」です。実習では、一年間を共に過ごす班のメンバーや、各科の先生方、看護師の方々、そして患者さんなど、実に多くの出会いに恵まれています。そのどれもが、かけがえのないものであり、私を支え、成長させてくれます。入学当初より「チーム医療」が重要視さ

## クリクリンの導き

医学科五年 廣野 優希音

早いもので入学してから四年が経ち、コロナ禍を乗り越えた私たちは五年生となりました。そして医学の知識をインプットする場から、医療というアウトプットの場合へと学びに出て、それももう半年が過ぎました。  
 病院で過ごす一日は、講義を受けていた今までの時間的な拘束は変わらぬのに対し、患者さんの問診・診察から検査、診断、治療、さらには患者さんの背景と、考えるべきことや学ぶことがたくさんあります。また患者さん相手のみならず、チーム医療の中で医師がとるべき姿勢についても、言葉や実際の姿を通して学ばせていただいています。同時に命を扱う現場という緊張感もあり、かなり濃密で重厚感のある日々を過ごしてきました。

てくださることがあります。そして自分たちの病院実習や研修医時代はこうだったというお話の後に、今後はもっとこうしていけば医師一人にかかる負担は減少し、医療現場はよりよく回り、やがては患者さんの医療の質に繋がるといことを話してくださいませ。ときにはその先生の所属する診療科が実践している取り組みや、先生方の多様な働き方までご紹介くださいます。さらに私たちの医師としてのビジョンについて、真剣に耳を傾けてくださる先生もいらっしゃいます。

「医者の仕事は楽しい。これだけは覚えて帰ってこれ」と、ある先生がおっしゃいました。私はその言葉がとても印象深く、そう断言できる医師人生ほど素晴らしいものはないだろうと思います。個人主義が目立つ昨今ではありますが、このような対話を通して、私たちは常に医療全体がうまくいくことを考え、その上で自分の未来をデザインして

てくださることがあります。そして自分たちの病院実習や研修医時代はこうだったというお話の後に、今後はもっとこうしていけば医師一人にかかる負担は減少し、医療現場はよりよく回り、やがては患者さんの医療の質に繋がるといことを話してくださいませ。ときにはその先生の所属する診療科が実践している取り組みや、先生方の多様な働き方までご紹介くださいます。さらに私たちの医師としてのビジョンについて、真剣に耳を傾けてくださる先生もいらっしゃいます。

いくべきなのだと考えさせられました。  
 最後に、皆様によって支えられているこの実習において全ての出会いとご支援に感謝を忘れず、ありとあ

## 若手教員・医師だより

### 若手教員・医師だより

小児科学講座 助教 小林 明恵

小児科の小林明恵と申します。千葉県で育ち、弘前大学卒業後、小児科医十年目となりました。学生時代から血液学に惹かれていた私は、臨床実習で担当したリンパ腫のお子さん、ご家族との関わりから、疾患は元より、患者さんの成長とその先の将来や家族のこと

らゆることから学ぶことで、将来の医療という形で報いることができるよう今後も励んでまいりたいと思います。

も考え見守る小児科に魅せられました。そんな私が寄稿の機会を頂きましたので、子どもたちと家族の支援を目標に、講座や病棟スタッフ

二人に一人はがんになる」わけですが、小児がんは年間約二千人、子ども七千五百人に一人が診断される希少疾患です。圧倒的少数のため、療養環境の充実には社会に知ってもらうことが必要です。そこで昨年度は弘前市の協力の下、国際的な小児がん啓発月間の九月にあわせて弘前城ゴールドライトアップを、



弘前城ゴールドライトアップ。患者さん、ご家族、スタッフとともに

二月の小児がんデーには病院玄関での啓発展示を始めました。少数だからこそ大切なピアサポートのため、患者さんご家族有志と協力し、附属病院後援の患者家族会「ういず」も発足して



附属病院玄関での啓発展示の様子

います(「ういず」は小児がんに限らない会です)。小児がん治療は成長発達過程の子どもの抗がん剤や放射線などの強力な治療を行うがゆえの特有の問題があります。治療の進歩による長期生存率の改善とともに、治療後の将来が長い子どもたちは晩期障害が問題となります。子どもたち自身に過去の頑張りを知り、将来の健康へ関心を持ってもらうため、治療内容や健康観察の注意点を記載するフォローアップ手帳

の当院での導入に取り組んでいます。また、子どもたちの成長に欠かせない学校にも長期入院による転校や高校生の留年危機など高い壁が立ちほだかります。原籍校との学習支援会議を重ね、学習空白を最小限にするだけでなく、治療を乗り越えた後に戻る場所の保障を目指しています。  
 他にも妊孕性温存やきょうだい児支援、グリーンケアなど山積する課題に挑むには他科スタッフ、行政、学校など子どもたちをトータルに支える様々な方の力を借りなければなりません。今年も九月二十三日(土)に弘前城が金色に輝きます。ぜひご覧頂き、興味を持って頂けたならば、いつでもお声がけ下さい。一緒に考えて下さる方を心待ちにしています！  
 日頃から支えて下さる周囲の方達への感謝を忘れず、疾患の勉強や研究に励み、子どもたちの笑顔を支える一人となれるようにこれからも頑張っていきたいと思います。

## 若手教員・医師だより

### 若手教員・医師だより

眼科 助手 小堀 宏理

医学部ウォーカーに寄稿するのは約十年ぶりとなります。かろうじて国家試験に合格したのがこの間

しいところもありますが頑張っています。  
 眼科は数センチの臓器によくもこれだけの病気があると思うくらい多岐にわたる疾患があり、内科的治療から外科的治療まで、診断から治療まで、非常に奥の深い世界です。「眼は嘘をつかない」というのは本当  
 (次ページへ続く)

(前ページより)

で、眼科では診察所見が非常に重要です。顕微鏡や写真などでしっかりと患者さんの眼を拝見し、所見を見つけ、診断治療に結び付けていきます。逆に言えば、自分が知らないことは必ず見逃してしまうので、不勉強があつてはならないと改めて感じ入る次第です。

く、夜間休日の眼科診察を要する眼科救急対応の機会も必然多くなります。これも軽微なものから臨時手術症例まで幅広く、忙しくもやりがいを感じます。余談ですが私は特に呼ばれることが多く、手の込んだ料理、特に中華を作っているとほぼ必ず電話が鳴ることから、我が家では当番日に中華禁止のルールができました。

することができるとアタツチメント機器があり、患者さんの所見を眼科医が遠隔から診断することが可能となりました。当科でもトライアルを行い画像の鮮明さに感心した覚えがあります。他にも最近、眼科領域において遺伝子治療薬が承認されたことも記憶に新しいですが、AIを活用した読影技術なども進歩しており、ほとんど新しい領域の診断や治療が増えてくることが期待されます。

眼科医は局在が非常に激しく、大都市圏では人気の科であるようですが、青森県は全国でも有数の、というか医師対人口比ではぶっちぎりでワースト1の眼科医不足地域です。学生さんや研修医の先生方、眼科に興味がある方は是非一緒に働きましょう。

二し、玉ねぎやジャガイモは一袋が1kg以上からが基本で、小分けに買うことができません。食べ物はピザ、ハンバーガー、フライドポテトなど、日本人が思い浮かべるアメリカそのものです(ケベック州はフランス的な食べ物があるようですが、他の州はイギリス系です)。ここトロントは移民を積極的に受け入れていて、都市圏人口約七百万人のカナダ最大の都市です。それにより、多民族・多文化・人種のモザイクが形成され、英語圏でありながら人口の半数の家庭内で話される第一言語が英語以外なのだそう。アジア系の人は結構多いです。カナダ人は一般的にはおおらかな優しい人が多いと言われている、人助けの精神が旺盛です。駅やショッピングセンターでは次の人のために、ドアを押さえていてくれ、電車やバスでは高齢者、障害者、子供連れにはサツとすぐに席を譲ります。これらは是非見習いたい習慣だと思えます。また、こちらの英語が拙くても根気強く聞いてくれたり、ゆっくり話してくれたたりすることが多いです(アメリカではこういうことは少ないようです)。

少ないようですが、アメリカと違い、銃の所持は厳しく制限されており治安は良く、世界で住みやすい都市の上位にランクインしています。留学したいけど、治安が心配という方は是非カナダを一度考えてみては？寒そうなのがネックと思う方もいるかと思いますが、トロントの気候は弘前が大丈夫ならOKだと思います。夏は三十℃を超える暑さは滅多になく、湿度も低いので過ごしやすいです。食べかけのポテトチップスもずっと湿気ません。真冬の気温は弘前より少し寒いですが、積雪はだいぶ少ないため、弘前よりも過ごしやすいです。オフタイムの楽しみは地元トロントブルージェイズのメジャーリーグの試合観戦です。カヤックやアイススケートな

海外留学はその準備段階から多くの労力を要します。しかし、その苦勞を含めて他では得難い貴重な経験を大きく成長させる機会にもなると思います。海外留学を希望する方には是非、挑戦してほしいと思っています。最後に、人員不足の

### コラム 医学部 二ぼね話

以前に恩師の最終講義に立ち会う機会があった。恩師は講義の最後に、こう切り出された。「みなさん、今回は折角集まってもらったので、私が考える医師にとって最も重要な技術について話します」。その時、場内の多くが「学問の極意が聞ける」と期待したと思う。恩師は、少し間を置いた後、「それは、人をまねること、つまり模倣です。私は今でも模倣する毎日です。では、みなさんお元気ですか」と話し、講義を終えた。そこにいる全員が呆気にとられたが、恩師を尊敬する私の座右の銘は、とりあえず「模倣する」とした。後日談となるが、ある会で、このエピソードを披露した。その際、関西の大御所の方より「その方は守破離を伝えたかったのでは……」

と教えられた。「守破離」は「守破離」シユハリ」とは、世阿弥の教えであり、まずは師匠から習った「型」を守り、次にそれを破って自分に合った型を修得し、最終的には型から離れて自由になるという過程を表した言葉だ。その「型破り」は「守」を破ることを、「守」がなければ「形無し」ということになる。つまり恩師は、型を守ることを「模倣」として初学者に説いたのだと感じた。その奥深さを知り、私に最終講義の感動が蘇ってきた。そこで私は、恩師に連絡を取り、最終講義の真意について切り出してみた。が、恩師には、最終講義の記憶はなかった。私が思うに、恩師は完全に自由となり「離」の境地に達していたのだ。

### 脳神経内科学講座

助教 今 智 矢

二〇二二年四月からカナダ・トロントの University of Toronto に留学しています。数々の質の高い論文を發表されていた憧れの脳神経内科学・脳神経病理医の Dr. Gabor Kovacs (ガボール、コバッチ) がウィーンからトロント大学の教授に招聘され、新たにラボをた

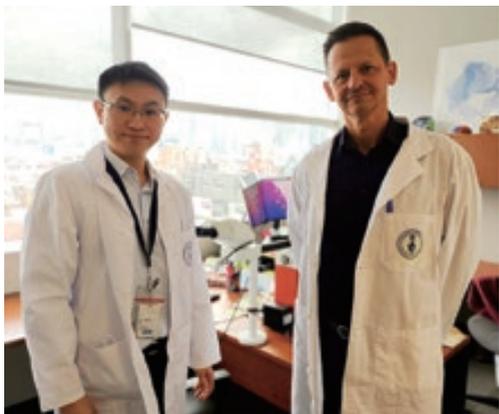
ち上げることを聞き、国際学会で直談判して留学に至りました。カナダについてどんな国なのかイメージがわからない方も多いかと思えます。私は基本的にはまずアメリカを思い浮かべていたのですが、そこからカナダはこういうところが違うというようにすると、なんとなく想像しやすいのではないかと考えています。アメリカ同様になんでもサイズが大きいです。ジュースや牛乳も

二し、玉ねぎやジャガイモは一袋が1kg以上からが基本で、小分けに買うことができません。食べ物はピザ、ハンバーガー、フライドポテトなど、日本人が思い浮かべるアメリカそのものです(ケベック州はフランス的な食べ物があるようですが、他の州はイギリス系です)。ここトロントは移民を積極的に受け入れていて、都市圏人口約七百万人のカナダ最大の都市です。それにより、多民族・多文化・人種のモザイクが形成され、英語圏でありながら人口の半数の家庭内で話される第一言語が英語以外なのだそう。アジア系の人は結構多いです。カナダ人は一般的にはおおらかな優しい人が多いと言われている、人助けの精神が旺盛です。駅やショッピングセンターでは次の人のために、ドアを押さえていてくれ、電車やバスでは高齢者、障害者、子供連れにはサツとすぐに席を譲ります。これらは是非見習いたい習慣だと思えます。また、こちらの英語が拙くても根気強く聞いてくれたり、ゆっくり話してくれたたりすることが多いです(アメリカではこういうことは少ないようです)。

少ないようですが、アメリカと違い、銃の所持は厳しく制限されており治安は良く、世界で住みやすい都市の上位にランクインしています。留学したいけど、治安が心配という方は是非カナダを一度考えてみては？寒そうなのがネックと思う方もいるかと思いますが、トロントの気候は弘前が大丈夫ならOKだと思います。夏は三十℃を超える暑さは滅多になく、湿度も低いので過ごしやすいです。食べかけのポテトチップスもずっと湿気ません。真冬の気温は弘前より少し寒いですが、積雪はだいぶ少ないため、弘前よりも過ごしやすいです。オフタイムの楽しみは地元トロントブルージェイズのメジャーリーグの試合観戦です。カヤックやアイススケートな

海外留学はその準備段階から多くの労力を要します。しかし、その苦勞を含めて他では得難い貴重な経験を大きく成長させる機会にもなると思います。海外留学を希望する方には是非、挑戦してほしいと思っています。最後に、人員不足の

## 留学だより



左が筆者、右が Kovacs 教授



近所のスケートリンクにて

海外留学はその準備段階から多くの労力を要します。しかし、その苦勞を含めて他では得難い貴重な経験を大きく成長させる機会にもなると思います。海外留学を希望する方には是非、挑戦してほしいと思っています。最後に、人員不足の



ラボメンバー集合写真

中、快く留学へ送り出してくださいました脳神経内科学講座の皆様には感謝いたします。

弘前大学大学院医学研究科 第3回 若手研究者紹介動画

医学研究科では、各講座で研究されている40歳未満の若手研究者に、現在取り組んでいる研究内容や、研究を志したこれまでの経験を自ら紹介いただくことで、他の若手研究者や学部学生に対する意欲を養うことに加え、紹介した若手研究者自身のモチベーションを向上させることを目的として、「研究者紹介動画」を作成・公開する取り組みを始めました。

第3回目は弘前大学大学院医学研究科4年(循環器腎臓内所属)の相馬宇伸(そうま たかのぶ)先生。『患者血液から樹立したiPS細胞を用いた冠攣縮性狭心症の疾患モデルの研究』を紹介します。

医学研究科ホームページで公開中！  
紹介動画はこちら ↓



大学院4年 相馬 宇伸 (循環器腎臓内科学講座)



# 循環器腎臓内科学講座

循環器腎臓内科学講座 教授 富田 泰史

旧内科学第二講座は一九五二年（昭和二十七年）四月に開設され、初代大池弥三郎教授が就任しました。一九七八年（昭和五十三年）から小野寺庚午教授、一九九六年（平成八年）から奥村謙教授、そして二〇一七年（平成二十九年）から富田が引き継いでおります。二〇一四年には呼吸器内科学講座が独立し、現在の循環器腎臓内科学講座に至っています。循環器内科では、急性心筋梗塞や致死性不整脈をはじめとする循環器救急、経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）やカテーテルアブレーション、デバイス治療などの最先端治療を行っており、症例数ならびに治療成



2023年7月に移転した新病棟（入院棟東4階）にて

績いずれも全国有数です。最近では心臓リハビリテーションにも力を入れてい

す。腎臓内科では、急性腎障害などの救急疾患、慢性腎臓病診断のための腎生

検、腎代替療法、そして泌尿器科と密に連携した腎移植など、多岐にわたる疾患を担当しています。高度先進医療に加え、循環器・腎臓疾患診療の最後の砦として、地域からの期待に応えるべく日々診療を行っております。

研究も活発です。現在八名の大学院生が、国内外の最先端研究施設（米国デューク大学や京都大学IPS細胞研究所など）に留学した指導医の下で基礎研究に従事しています。iPS細胞技術を用いた冠攣縮狭心症患者由来の疾患モデルの確立、細胞内シグナル伝達物質であるβアラレスチンの役割の解明、レニン過剰発現マウスを用いた高血圧性心・腎障害の機序解明と治療薬の開発など、細胞ならびに動物実験を精力的に展開しています。臨床研究では、当科の豊富な症例

数を中心に多数の観察研究を行っております。特に青森県の急性冠症候群（ACS）患者の実態調査を目的とした「Aomori ACS Registry」では、県内の基幹病院から既に千例を超える患者が登録され、今後の解析が期待されています。また、患者一人一人を丁寧に診ることによって得られた新たな知見は、症例報告として積極的に論文発表しています。医学研究を通じて若手医師のリサーチマインドを涵養し、医学の発展に貢献し世界に羽ばたくことのできる臨床医学者（Physician Scientist）の育成を目指しています。

研究も活発です。現在八名の大学院生が、国内外の最先端研究施設（米国デューク大学や京都大学IPS細胞研究所など）に留学した指導医の下で基礎研究に従事しています。iPS細胞技術を用いた冠攣縮狭心症患者由来の疾患モデルの確立、細胞内シグナル伝達物質であるβアラレスチンの役割の解明、レニン過剰発現マウスを用いた高血圧性心・腎障害の機序解明と治療薬の開発など、細胞ならびに動物実験を精力的に展開しています。臨床研究では、当科の豊富な症例

数を元に多数の観察研究を行っております。特に青森県の急性冠症候群（ACS）患者の実態調査を目的とした「Aomori ACS Registry」では、県内の基幹病院から既に千例を超える患者が登録されています。また、患者一人一人を丁寧に診ることによって得られた新たな知見は、症例報告として積極的に論文発表しています。医学研究を通じて若手医師のリサーチマインドを涵養し、医学の発展に貢献し世界に羽ばたくことのできる臨床医学者（Physician Scientist）の育成を目指しています。

最後に、最近当講座ホームページを一新しました。またFacebookも頻繁に更新していますので、是非ご覧いただけます。是非ご覧いただければと思います。これからも循環器腎臓内科学講座をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

最後に、最近当講座ホームページを一新しました。またFacebookも頻繁に更新していますので、是非ご覧いただけます。是非ご覧いただければと思います。これからも循環器腎臓内科学講座をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

最後に、最近当講座ホームページを一新しました。またFacebookも頻繁に更新していますので、是非ご覧いただけます。是非ご覧いただければと思います。これからも循環器腎臓内科学講座をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

# 呼吸器内科学講座

呼吸器内科学講座 教授 田坂 定智

呼吸器内科学講座は、平成二十六年十二月に循環呼吸腎臓内科学講座（旧内科学第二講座）を改組して循環器腎臓内科学講座と呼吸器内科学講座が設置されたことに端を発し、平成二十八年一月に田坂が初代教授として着任した比較的新しい講座と言えます。しかし旧内科学第二講座の初代教授である大池弥三郎先生が東北大学抗酸菌病研究所（現加齢医学研究所）で結核の研究に従事していたこ

とを考えると、古くて新しい講座と言えるかも知れません。附属病院では呼吸器内科・感染症科として、主に肺癌や気管支喘息、間質性肺炎などの呼吸器疾患の診療に従事しています。現在はスタッフ七名、大学院生・専攻医十一名で教育・診療・研究に当たっています。

教育面では医学科三年次の系統講義（呼吸器内科学・外科学、感染症学）四年次のPBL、五・六年

次のクリニカルクラークシップを担当しており、他にも保健学科の講義も行っています。呼吸器疾患は悪性腫瘍から感染症、アレルギー疾患とバラエティーに富んでおり、画像所見、呼吸機能、病理などによって病態を多面的に捉えることが呼吸器病学の醍醐味です。教育の場では、学生の皆さんにこうした呼吸器病学の面白さが伝わるように心がけています。卒業教育では、新専門医制度に対応

して県内外の十二施設から成る施設群を形成し、当院が基幹施設となっており、重点コースを設けており、内科専門医に加えてサブスペシヤルティとして呼吸器、感染症、アレルギーの専門医資格が取得できるような体制を整備しています。診療面では、県内外の多くの病院から患者さんを紹



（次ページへ続く）

# 書籍のおしらせ

(前ページより)  
 どを使用するプレシジョンメディシンが標準になっていきますが、当科は全国規模の肺癌遺伝子診断ネットワークであるLC-SQRUM-Japanに参加し、治験も含めて有効性が期待される治療を提案しています。また気管支鏡下に十分な量のサンプルを採取するためのクワイオ生検も導入しており、肺癌や間質性肺疾患の診断に活用しています。

す。また肺の気腫化や気道の壁肥厚を定量的に評価できる画像ワークステーションを用いて形態と呼吸機能との関連について研究しています。基礎研究については気管支喘息や非結核性抗酸菌症に関する研究を行っているほか、ゲノム生化学講座や脳血管病態学講座、感染生体防御学講座、病理診断学講座で大学院生がお世話になっております。

呼吸器内科は肺癌や肺炎、喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、間質性肺炎など扱う疾患が多岐にわたる一方、全国的に専門医が不足している領域です。これからも個々の患者さんに最適な医療を提供するとともに、優れた呼吸器内科医の育成、時代をリードする研究に全力で取り組んで参ります。引き続きのご指導、ご支援をお願いいたしますとともに、私たちと一緒に呼吸器疾患や、感染症、アレルギー疾患の診療や研究に取り組んでみたいという若い力を待っています。

FCバルサルバはフットサルを通じた交流を目的として設立されたサークルです。

## 部活動紹介

### FCバルサルバ

医学科三年 布袋屋 壮太

あり、毎週土曜日に活動を行っている。

本サークルの特徴として最初に挙げられるのは、自由で明るい雰囲気や醸成されていることである。参加者は自身のスキルや経験に応じて自由にプレーすることができ、初心者から経験者まで、各自のペースで成長し、技術を向上させることができる。この自由な雰囲気やフットサルサークルの魅力の一つとなっている。また、初心者も多く参加していることもこのサークルの特徴の一つであり、フットサルに興味はあるが実際にプレーした経験がないという学生たちがこのサークルでフットサルの楽しさを体感している。初心者が多いことのみならず、同じスタートラインから始まっており、一緒に成長していく姿勢が涵養されていることもこのサークルの強みである。そして、経験者たちはフットサルを楽しむながらも初心者を常に気にかけて、自身の知識や経験を共有することで初心者の成長をサポートする役割を果たしている。大学からフットサルを始めた部員でも、新たな技術や戦術を学ぶ環境が整っている。

「青森あすまし温泉紀行」は、医学部ウォーカー第六十九号(二〇一四年六月)から九年余連載してきましたが、百五十湯を機に筆をおくことにいたしました。今回は、弘前からほど近い鹿角・大館を訪れ、最後に下北に向かいます。

大湯温泉(県外編第二十三湯:鹿角市十和田大湯:二十一時迄)は、大湯川沿いに自然湧出の湯が湧き、南部藩保養温泉地・小坂鉱山保養地・十和田湖観光拠点として栄え、最近では大湯環状列石が世界遺産・北海道・北東北の縄文遺跡群に含まれて注目されています。ウォーカー第七十号・七十一号で記載の「東北温泉風土記」でカラー版画「馬橋に乗って」とともに紹介もされている歴史ある温泉です。四つの共同浴場のうち「荒瀬の湯」では共同浴場としてはともめずらしい足元湧出湯となっています。地元の方が利用する温泉ですが、挨拶含めマナーを守れば、無色透明で熱めのナトリウム・塩化物泉をしつかりと味わうことができます。

板子塚温泉(第百四十九湯:むつ市川内町板子塚:二十二時迄)は、スパウッド観光ホテルとして名が知られており、旧川内町で国道三三八号から県道四六号に入ると比較的すぐの所にあります。地元のスパリゾート的存在のようだが気軽に入湯できます。心地よいナトリウム・硫酸塩・塩化物泉で、週代わりで男女大浴場が入れ替わりですので、片方のみにある露天風呂に入りたい場合には事前に確認した方が良さそうです。ログハウス風でエントランスホール吹き抜けの立派な建物の回廊状二階部分が客室になっています。ホームページを見ると地元工藤林業が経営し、格安の料金で宿泊可能なよう一度宿泊してみたいと思う温泉です。

薬研温泉(第百五十湯:むつ市大畑薬研:原則宿泊者のみ)は、薬研渓流近くの県道四号沿いで、静かな山間に二軒の小さな宿があります。湯量豊富な源泉が流れて、単純温泉ながら若干の硝素が加わっている最高の湯です。薬研荘は、二つの浴室を客室単位で入るシステムのため、一人旅では温泉を独占することが出来ます。ヒバ林に覆われ遊歩道も整備されている薬研渓流を散策するもよし、恐山菩提寺(境内に恐山温泉:ウォーカー第八十七号)参拝の拠点にするもよしと、個人的にはお気に入りの温泉の一つです。

### 「麻酔科トラブルシューティング AtoZ 第2版」

麻酔科学講座 教授 廣田 和美

読者対象は麻酔科専門医とし、臨床麻酔管理中に起こることが想定される様々なトラブルについての解決策を示しています。具体的には、患者の術前評価(麻酔管理上の問題点)患者への説明の仕方、麻酔薬の選択や術中・術後の緊急事態に備えて術前に何を準備し、術中・術後ではどのように対処するか等、二百八十項目の疑問やトラブルの内容並びに解決法を掲載しています。本書を上手く利用して、周術期のトラブルシューティングをして頂きたいと思えます。



### 「最新主要文献とガイドラインでみる麻酔科学レビュー 2023」

麻酔科学講座 教授 廣田 和美

二〇一八年から毎年出版している「麻酔科学レビュー」を今年も二〇二三年度版として、五月二十五日に総合医学社から、私と札幌医大麻酔科学講座の山蔭教授との共同監修で出版

しました。最初に刊行されたのは一九九六年であり、実に十七年のロングセラーとなっています。本書は、麻酔科学領域として、麻酔、集中治療、救急医療、ペインクリニック・緩和領域もカバーしています。それぞれの分野のエキスパートが概説しており、内容が理解しやすく、最新の動向をどう読み解くかもわかると思います。麻酔科学領域だけでも四十誌近くある学術誌に目を



通し、最近の趨勢を正確に把握することは時間的にも難しいと思います。そういう意味でも、周術期管理、疼痛・緩和医療に関わる方々のお役に立てる著書と思えます。

## Final 青森あすまし温泉紀行

38

鬼島 宏  
 (医学教育講座・教授)

- 大湯温泉 (鹿角市)
- 秋迎内温泉 (大館市)
- 板子塚温泉・スウッド観光ホテル薬研温泉

大湯温泉(荒瀬の湯)  
 大館市秋迎内:第一・三火曜休(二十一時迄)は、弘前か



大湯温泉(荒瀬の湯)



板子塚温泉



秋迎内温泉



薬研渓流



薬研温泉

青森県内や近隣には数多のすばらしい温泉があります。しかし、一度は訪れた温泉がこの紀行で紹介するために再訪したところ閉館していた温泉や、紹介後にも閉館してしまった温泉も少なくありません。施設の維持・修繕に加えて、後継者不足が閉館の要因かと思いますが、残念です。最後になりますが、連載中、多くの方々より本寄稿へのご意見や励ましの言葉をいただきました。この場を借りて感謝を申し上げます。

# 公益社団法人 青森医学振興会

【沿革】平成11年3月1日 弘前大学医学部医学科後援会鶴松医学振興会発足（任意団体）  
 平成13年4月2日 社団法人青森医学振興会設立認可  
 平成24年4月1日 公益社団法人青森医学振興会へ移行認定

当会では、青森県の医学・医療の発展を促進するため、次の事業活動を行っております。

- 医学教育活動の活性化を図るための事業への支援
- 医学・医療の高度化に資する医学研究事業への支援
- 地域医療の振興に寄与する事業への支援
- 海外との学術交流等の活性化を図るための事業への支援

随時、会員の募集とご寄附を受付しております。

本会の公益目的事業に対する寄附金（年会費を含む）は、確定申告をしていただくことにより税制上の優遇措置の対象となります。

年会費は、下記いずれかの口座へお振込み願います。

なお、ご入会をご希望される方又はご寄附（年会費を除く）をされる方は、お手数ですが当会までご連絡をお願いいたします。

口座名	公益社団法人 青森医学振興会		
口座	青森銀行 親方町支店	普通 1087485	(注：令和4年11月14日に弘前支店から親方町支店に店名が変更になりました。)
	みちのく銀行 大学病院前支店	普通 0198579	
	ゆうちょ銀行	口座記号番号 02200-4-57580	
会費	会員種別	年会費	参考…ゆうちょ銀行では、令和4年1月17日から、窓口及びATMにおいて現金で払い込みをする場合には、払込人様が現金利用に伴う加算料金110円を別途ご負担いただくこととなりますので、ご注意ください。(口座からのお支払いをお勧めします。)
	医学部教員 医学部卒業生等 賛同する個人 賛同する団体	1万円 2万円 2万円 10万円	

お問い合わせ 公益社団法人青森医学振興会事務局  
 TEL・FAX 0172-40-2872 E-mail: info@aomori-mpm.jp

(前ページより)  
 ため初めてのフットサル体験を充実させることができています。そして、幅広い年齢層のメンバーが参加していることも他のサークルにはない特徴である。バルサルバには学位取得者や社会人経験者など、さまざまなバックグラウンドを持つ学生たちが在籍している。異なる世代や経験を持つメンバーが集まることで、多様な視点や知識が交換されており、年齢や経験による垣根を超えて、お互いが刺激を受け成長する機会が与えられている。



「うちの大学に柔道部はありましたっけ？」  
 面接の会場で当時受験生だった私は大学に入ってから取り組みたい部活を聞かれ、勢いよく「柔道部です」と答えましたが、返ってきた言葉は意外なものでした。大学の友人にも柔道部の存在はあまり知られておらず、自分の部活を伝えると驚かれます。医学部ウォーカーの読者の皆さんにはこの紹介文を読み、ぜひ弘前大学医学部に柔道部があることを覚えていただきたいです。

## 柔道部

医学部四年 早坂 脩真

医学部柔道部は長らく活動を停止しており、二〇一八年ごろに復活しました。少しずつ部員を増やし、東医体にも参加しましたが、新型コロナウイルス感染症の影で活動が休止し、部員の勧誘もままならない状態となりました。新型コロナウイルス感染症が五類に分類され、社会的にも制限が緩和されたことを受け、第六十六回東医体への出場を目標に部員を集めて、本年度から活動を再開しました。



現在部員は五名で、練習は全学の部活に参加したり、道場を借りたり、個々で練習したりと様々な形式をとっています。他の大学と比べて人数も練習量も少ないですが、短時間で密な練習をするよう心がけております。

二〇二三年八月に柔道の聖地、講道館で行われた第六十六回東医体に団体戦、個人戦で出場しました。団体戦は予選リーグを全勝し、決勝トーナメントでも優勝に進みましたが、決勝で惜しくも敗れてしまいました。しかし、弘前大学医学部柔道部として数十年前ぶりとなるトロフィーとメダルを獲得することができました。また個人戦では医学科三年の工藤が73kg級で優勝。医学科四年の早坂が60kg級で三位に入賞しました。応援してくださった皆様にはこの場を借りてお礼申し上げます。

## 人事異動 (R5.6.1 ~ R5.8.31)

### ● 医学研究科所属

#### 【昇任】

発令日	所属	職名	氏名	前所属
R5.6.1	皮膚科学講座	講師	赤坂 英二郎	皮膚科 助教
R5.8.1	整形外科科学講座	准教授	和田 簡一郎	整形外科 講師

#### 【採用】

発令日	所属	職名	氏名	前所属
R5.7.1	内分泌代謝内科学講座	助教	西谷 佑希	大館市立総合病院
R5.7.1	健康・医療データサイエンス研究センター	特任助教	橋本 泰裕	大阪公立大学
R5.8.1	健康未来イノベーションセンター	特任助教	田中 吏	順天堂大学

#### 【辞職】

発令日	所属	職名	氏名	異動先等
R5.6.30	内分泌代謝内科学講座	助教	水尻 諭	大館市立総合病院

### ● 附属病院所属

#### 【採用】

発令日	所属	職名	氏名	前所属
R5.7.1	耳鼻咽喉科頭頸部外科	助教	原 隆太郎	青森県立中央病院

#### 【配置換】

発令日	所属	職名	氏名	前所属
R5.8.1	整形外科	講師	木村 由佳	整形外科科学講座・講師

#### 【辞職】

発令日	所属	職名	氏名	異動先等
R5.6.30	耳鼻咽喉科頭頸部外科	助教	三浦 智也	大館市立総合病院

## 臨床教授・臨床准教授新規称号付与者名簿 (令和5年8月1日付)

称号名	氏名	現職名	称号付与期間
臨床准教授	佐藤 麻希子	青森市民病院 産婦人科部長	2023年8月1日 ~2026年7月31日

## 診療教授等新規称号付与者 (令和5年7月1日付)

称号	氏名	所属	期間
診療教授	佐々木 真吾	循環器内科	令和5年7月1日~令和8年6月30日

## 編集後記

今年の五月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが季節性インフルエンザと同じ五類感染症となり、以前のように様々なイベントが行われるようになってきました。弘前ねぶたまつりも今年は四年ぶりに制限なしの開催となりました。弘前大学も四年ぶりに出陣し、それに合わせて附属病院における小ねぶた運行も行われました。病院正面駐車場を二周するだけのささやかなイベントではありますが、入院中の子ども達や家族のたくさんの方々の笑顔がみられました。これからも毎年行われることを願います。

東医体も四年ぶりに全面開催となりました。昨年、一部の競技は開催されたものの、ほとんどの競技は三年連続中止となっていました。今年、入学後初めて東医体に参加したという四年生も多かったのではないかと思います。東医体に関する記事は医学部ウォーカーの創刊当時から定番の記事であり、毎年楽しみにしている方も多かったのではないのでしょうか。弘前大学は毎年のようにいくつかの競技で優勝を飾り、総合成績も一桁順位の高さが多かったと思います。また以前のように母校の運動部の活躍ぶりが紙面を賑わすようになるのを楽しみにしています。(照井 記)

